



# 縄文時代から弥生時代への変化

[キーワード: 縄文、弥生、農耕、石棒、大陸系磨製石器]

教授 中村 豊

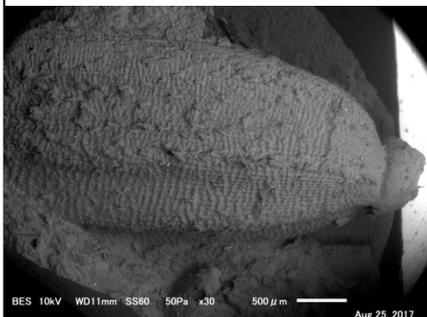
## <研究の概要>

日本列島の歴史において、もっとも大きな変革のひとつであった、縄文時代から弥生時代への変化についておもに研究しています。

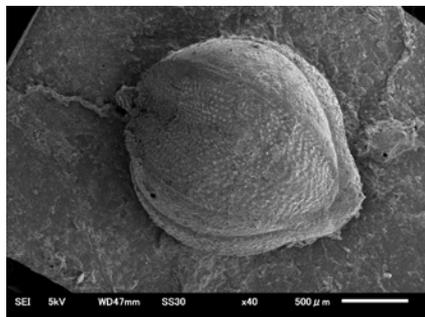
縄文時代晩期に、すでにイネ・アワなどの栽培が開始されていたことを、縄文土器の表面に残された圧痕を調べることで、徳島県内の遺跡でも確認することができました(下の写真)。研究室の発掘調査では、当該期の遺跡を発掘することにより、当時の集落がどのような景観をしていたのか検討しています。

徳島県内では、縄文・弥生両時代において、結晶片岩製の石器(儀礼用の石棒、加工用の磨製石斧)が生産されていたことがわかっています。その分布域が、近畿地方から中四国地方一帯に広がっていたことがわかってきました。徳島県産の結晶片岩が広い地域で必要とされていたことや、縄文時代から弥生時代にかけての交易がどのようなものであったのかを明らかにしてきました。

今後も徳島地域をフィールドに上記研究を継続していきます。



縄文時代晩期のイネ(徳島市三谷遺跡)



縄文時代晩期のアワ(徳島市名東遺跡)

## <主要研究業績>

- ・中村 豊(2014年)鈴木克彦編『シリーズ縄文集落の多様性Ⅳ』雄山閣、291頁-308頁
- ・中村 豊(2017年)「列島西部における縄文晩期末大型石棒盛行の背景」山本暉久編『二十一世紀考古学の現在』六一書房、297頁-307頁
- ・中村 豊(2016年)「凸帯文土器と遠賀川式土器一東部瀬戸内地域の資料をもとに」豆谷和之さん追悼事業会編『魂の考古学一豆谷和之さん追悼論文編一』豆谷和之さん追悼事業会、23頁-32頁

## <地域(行政)、NPOや企業との連携・共同研究実績>

海陽町大里古墳の調査・研究、海陽町教育委員会、2017年

## <地域(行政)、NPOや企業と連携・共同研究可能なテーマ>

縄文・弥生時代の遺跡からみた地域社会の起源

専門分野 : 日本考古学(縄文・弥生時代)

E-mail: nakamura.yutaka@tokushima-u.ac.jp

Tel : 088-656-7155

詳細情報 : <http://pub2.db.tokushima-u.ac.jp/ERD/person/60610/profile-ja.html>

